

2025年度 まめどくれっしゅ 事業計画書

I. 基本方針

- ・社会福祉法人どろんこ会の理念「にんげん力。育てます。」
- ・子育て目標「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」

【どろんこ会グループが目指す園の姿】

1. 基本活動の深い理解
2. 畑仕事・生き物の世話・堆肥作りを確実に丁寧に行う
3. ～混ざるその先へ～健常児も障害児も生きる力を獲得する
4. 自走に向けて

1. 主体的・対話的な深い学びを目指す。子どもが今日、経験したことを他者とかかわりを深める中で、自己選択、自己決定できる環境の中、自由に気持ちを表現し、それを受け止めてもらう関係から、人と関わる力、自分の生活をつくりだす力、未来を創造する力を育んでいく。
2. 子どもが身近な環境に興味や関心を持って積極的にかかわり、心動く経験をたくさん持ち「試行錯誤」(トライアル・アンド・エラー)を繰り返し、生活を意味あるものとして捉えることができるよう保育を展開していく。

〈I〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	生きる力の基礎：「人間力」を育むどろんこ会の日課、基本活動の充実と質の向上
	実践予定内容	異年齢保育・座禅・雑巾掛け・さくらさくらんぼリズム体操・戸外活動・生き物の世話・畠仕事・裸足保育・縁側給食・商店街ツアー・地域異世代交流の意味を深めながら実践する。 保育者は、研修や自己研鑽を通してこれらの活動における課題を見出し、常に自らの人間性と専門性の向上に努めていく。
2	計画・ねらい	子どもが主体的に活動するための環境構成
	実践予定内容	・安心感・安定感が得られるような環境づくり ・興味や関心を持ち、思わず関わりたくなるような環境を提供していく ・試行錯誤し工夫しながら遊ぶための環境構成を整え、必要な援助を行っていく。
3	計画・ねらい	知・徳・体『生きる力』のバランスの取れた保育内容の充実
	実践予定内容	「運動遊び」「知育あそび」「原体験」「食育」「表現活動」等、園の特色を生かした様々な体験活動の充実により、子どもが自分で考え、友達と協力しながら自分で行動する「知・徳・体」の力の基礎を培い、「遊び」を通して発達や学びの連続性を踏まえた保育を行う。また、これらをバランス良く育てることで『生きる力』につながる。 「知」：知る、考える、伝える、感じる、できるようになる 「徳」：思いやり、感動する心、協調性 「体」：体を動かす楽しさ、身体をつくる

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

保護者の不安や悩みを受け止め和らげていき、少しでも子育てが楽しくなるように働きかけていく。また、著しく成長してしく子どもの存在に感動しながら、保護者と一緒に子育てを進めていけるように温かく支えていく。

1	計画・ねらい	園での子どもの姿、育ちを家庭と園と共有していく
	実践予定内容	情報発信を通じたコミュニケーションを図る。「タイムライン」や「保育ドキュメンテーション」を使い活動の可視化を図り、保護者にわかりやすく、子どもたちの育ちや学びのプロセスを伝える。
2	計画・ねらい	子どもも保護者もそして、保育者も一緒に育ちあう、育っていける共育での積極的な意味を感じ取り、理解していく。
	実践予定内容	保育園という保育のプロである保育者がいて、同年代の子どもが一緒に生活している場所、そこに加わることで、子どもと保護者、そして保育者も一緒に育ちあい、園と家庭で24時間の生活を理解し合いながら、子どもの育ちを一緒になって喜び合う。家庭ではできないことを支えてくれ一緒に育つという関係を構築していく。

〈3〉地域の子育て支援事業

地域に開かれた子育て支援を実現し、子育て支援室チキンエッグを拠点とした支援活動を行う。また、近隣の系列園である大豆戸どろんこ保育園と協力し合い、子育てに悩む地域の方々の心の拠り所となるような場所を目指す。

1	計画・ねらい	地域に開放的な園を目指す
	実践予定内容	子育て支援活動「ちきんえっぐ」の活動を知ってもらい、気軽に立ち寄りやすい雰囲気作りに努める。活動は、保育の専門性を生かした子育て支援を積極的に行っていく。また、いらしていただいた子どもの状況を配慮し、柔軟に活動を展開できるようにしていく。
2	計画・ねらい	子育て家庭との交流の場の提供と交流を促進する
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の保育園や商店街、施設との交流を深めながら、地域に根付いた保育園を目指す。 ・様々な方が園に集まることで、子育てのコミュニティを広げていける場の提供と促進に努める。
3	計画・ねらい	子育て等に関する相談や援助の実施
	実践予定内容	園を子育て家庭に開放して、育児講座や親子遊びなどのイベントを開き、育児に関する情報提供や育児相談を行い、いつでも相談できる子育て拠点となることで、地域の人々をつなぐ園を目指していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

保育所・保育指針の保育のねらいは、子どもの「資質・能力」を育むこと、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」が示されている。子どもの育ちや学びが小学校以降も継続されていることを据えて保育をする。唱されているのが、アクティブ・ラーニング「主体的・対話的な深い学び」である。「主体的」とは、自分から進んでやること、同時に自分がやろうとすることに見通しをもって振り返ること、「対話的」とは、自分の考えや感じたことを他の人と伝えあうこと、伝えあったうえ

で自分の考えに他の人の考え方を取り入れて、自分もまた考えていくことである。「深い学び」は「なぜ」や「本当にそうなのか」と普遍的な考え方さえも子どもや保育の中では、考えていくことが求められている。すなわち保育者は、知識を積み上げることと同時に、答えの出ない問いに自分なりの考えをもち、意見を主張できるこころを持って同時に、私は、みんなの中の一人と周りに目を向けて、共に生きようとする心を併せ持った、一人の主体として育っていく。

1	計画・ねらい	保育者としての心構え
	実践予定内容	子どものことを第一に考え、一人ひとりの言動や気持ちに寄り添い子どもが自己発揮しやすいような関わりを築いていく。
2	計画・ねらい	プロとしての接遇
	実践予定内容	基本のビジネスマナーを理解し実践知を身につけ、プロとして自覚と責任感・使命感を持ち仕事に対して真剣に取り組む。
3	計画・ねらい	「異なる魅力」をつなぎ「学び合う」チームづくり
	実践予定内容	個々の保育者が得意とすること(個性や特性)を大切にし、その魅力をお互いに理解し、個々の力を園の保育資源として活用していく。お互いの特性を知り、お互いの違いを認め合い、支え合うチームを目指していく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材、食の循環を知る機会を生活の中に取り入れる
	実践予定内容	畑仕事、野菜の下処理を日々の日課として実施する。味噌作り、しそジュース作り等の食材加工を行う。鶏の卵を使った自園調理、鶏糞を利用した肥料を作り、畑で使用する堆肥の自給自足をめざす。
2	計画・ねらい	給食残渣の削減、調理過程で発生した生ごみの削減と活用
	実践予定内容	給食残渣を定期的に測定し記録検証を行う。調理過程で発生した野菜くずを残渣のコンポストで堆肥にする。玉ねぎの皮で染物作りを実施する。
3	計画・ねらい	樹木や木材に親しむ体験
	実践予定内容	木登りや木々の木陰の中での園庭遊びを実施し、柿、よもぎ、ゴーヤ等の園庭の樹木から収穫して食する。木の温もりが感じられる感触が楽しめる玩具を取り入れ木育を実施する。薪や採取した枝を使用して、焚き火体験を行う。

〈6〉子どもの人権と尊重

1	計画・ねらい	子どもの人権の尊重について
	実践予定内容	子どもは大人と同等であり、平等である 子どもは、「小さくても一人の人として尊敬される存在」であり「自分の思い・意志を持った存在」であると捉え「尊敬の対象」として子どもを見る事が大人が子どもの人権を尊重し、守る存在になる。
2	計画・ねらい	子どもの人権力を育む
	実践予定内容	遊びや生活の中で「人権力」を育てる。活動を通して、子どもの発達に必要な経験を積み上げていく中で、子どもの人権を「守り」「育てる」ために、保育者自身のエンパワーメントを高めていく。

〈7〉自律した保育運営

1	計画・ねらい	主任・リーダーが保育現場の牽引者としてPDCAを実施。保育の質の向上に努める
	実践予定内容	リーダー会議を適宜行い、課題の抽出、改善について検討する。 保育の連続性を担保するため、PDCAサイクルを日常化、週会議、フロア会議で保育デザインマップを活用してその時々に有効な打ち合わせの中で検証し、保育の質の向上に努める。
2	計画・ねらい	スタッフ一人一人が内部監査の確認ポイントを理解し、実践することで質の高い保育を提供する園になり、選ばれる園を構築する。
	実践予定内容	内部監査のポイントを学び、PDCAサイクルで自主的に運営を目指す。そのためスタッフが、チームとなって園の運営に関わり、園会議の場で振り返り、アクションプランを立てていく。
3	計画・ねらい	意見が出しやすい雰囲気作りと子どものことが常に話題になる職員集団の構築
	実践予定内容	ボトムアップを図り、各会議で批判しない。まずは受け入れる姿勢を基本として若手スタッフや他のどのスタッフも意見を出しやすい雰囲気と仕組み作りに着手する。

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
3人	8人	10人	11人	11人	11人	54人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	10人	看護師	0人	栄養士	0人	調理員等	2人
パート スタッフ	保育士	3人	補助	1人	調理	1人	事務	0人
	用務	0人	嘱託医	2人				

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	園内研修、活動振り返り、コンピテンシー考察、品質マニュアル記載、安全・危機管理研修
給食運営会議	月1回	アレルギー確認、クラス給食状況、給食会議報告
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット・自己記録簿の振り返り、傾向と対策
ケース会議	月1回	月1回
フロア会議	週1回	フロアごとの保育計画の振り返り
リーダー会議	月1回	現場の課題の抽出、業務改善や標準化の検討
昼礼	週1回	事務連絡、子どもの様子の共有、園内研修

〈2〉 法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人全体の課題・連絡
施設長勉強会	月1回	保育の質向上に向けての講習
食育会議	年4回	食育計画の立案、献立内容の改善、提案マニュアルの見直し、アレルギーについて
保健会議	年4回	感染症対策やガイドラインの作成、保健計画作成、提案マニュアルの見直し、園児の健康管理
主任会議	年6回	運営・マネジメントにかかる研修
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の質の向上を高める研修、保育内容について

〈3〉 各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	子ども及び保育者の健康保持のために、施設内外の保健的環境の維持向上、衛生管理
安全対策係	施設内外の施設および消防設備点検、避難経路の確保と点検

防火管理者	防災を想定した訓練計画や消防設備点検、避難経路の確保と点検
食品衛生責任者	給食衛生管理マニュアルに基づいた対応
畠係	年間を通した計画案の作成と実施、畠の管理
生き物係	命の尊さや自然現象への関心の幅を広げる機会を設定

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこまつりの企画、運営
運動会、生活発表会係	運動会、生活発表会係の計画・企画
子育て支援担当	子育て支援事業の計画・実行

4.保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生理的欲求を満たし、情緒の安定を図る。 歩行の確立、言葉の獲得により盛んになる探索活動が十分にできるようにし、友だちとの関わりの芽生えを促していく。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> 身近な大人との安定した関係の中で、一人遊びを十分に楽しみながら自我が芽生える。 多くの経験をする中で感性を豊かにし、感じたことを少しずつ言葉で伝える場を大事にする。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> 日々の生活や遊びの中で、基本的生活習慣や運動、身体の使い方が身につく。 興味関心を持ったことに主体的に取り組み、最後まで遊び込み、充実感を得る。 異年齢での関わりの中で、自分の気持ちを言葉や行動で表現する
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> 異年齢での関わりの中で、相手の気持ちを理解しながら協力して課題に取り組み、自分たちでルールを決めるなどして、解決することができるようになる。 様々な体験を通して五感が刺激され、豊かな感性や表現力を育み、創造性の芽生えを培う。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼

保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・ 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・ 連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用
運営委員会	年2回	6月と11月に実施予定

〈2〉 年間行事計画

- ・ 2025年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2025年度年間スケジュール」に掲載
- ・ 保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	食べたいもの・好きなものが増える子ども
	実践予定内容	いろいろな食材に興味が持てるような活動を取り入れ、メニューの調理に工夫を凝らし、食事の中で「大好き」を増やしていくように取り組む
2	計画・ねらい	一緒に食べたい人がいる子ども
	実践予定内容	スタッフは子どもと一緒に食べる。食は、人と人をつなぐ食育活動ということを実感させる。
3	計画・ねらい	食事づくり・準備に関わる
	実践予定内容	当番活動や皮むきの手伝い、畑活動やクッキングを通じて、感謝し感謝されるという体験を積み重ね、食事を取り巻く様々なことを自分のこととして感じられるようにする。

〈4〉 保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年2回（6月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	うがい・手洗い指導、歯磨き指導、生活リズムを整える、体の仕組みを知る、自分の身体の成長を知る。
流行が予測される感染症	通年…新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 7, 8月頃…ヘルパンギーナ、プール熱(咽頭結膜熱) 10月, 12月…RSウイルス感染症

	12月～2月…インフルエンザ、感染性胃腸炎、 12月～7月…溶連菌感染症
発作・痙攣等の対応のため の薬の預かり	ダイアップ…3名より預かり済み／園内にて保管
エピペン使用できるスタッ フ	本日、現在18名が研修受講し、修得済み
その他保健に関する取組	保育園感染症サーベランス登録 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・ 手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検(簡易)	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6・11月 歯科健診 年2回／6・11月

運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもの「やりたい」を尊重し、発達や興味・関心に合わせた環境を作ると共に、安心して過ごせ環境作りを行う。
	実践予定内容	どの子どもにも「やってあげる」保育ではなく、それぞれの発達段階や興味関心があることを見据えながら環境構成を行い、子ども自身の育ち、自立を「見守る」保育環境を整えていく。
2	計画・ねらい	自然に触れて感動する体験や命の大切さを感じる環境づくり
	実践予定内容	自然には、草花や虫、哺乳類など命あるものと水や土、石、風など命のないものがある。こうした環境に触れて親しむなかで、自然の素晴らしさやおもしろさに感動し、心動かす体験をしていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定期
1	ターザンロープ	園庭	毎月
2	タイヤ遊具	園庭	毎月
3	鶴小屋	園庭	毎月
4	泥場 遊具棚	園庭	毎月
5	乳児靴入れ	I階縁側	毎月

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	消防計画に基づき自衛消防隊を編成し、避難訓練を毎月15日に行う。危機管理マニュアルに則り、災害発生時には対応フローチャートに従う。年2回通報訓練と保護者と連携した児童引き取り訓練を行い、非常時はアプリを利用し、園児の安否情報を発信する通知訓練も行う。
	実践予定内容	危機管理マニュアルに則り、ケガ発生時には対応フローチャートに従う。事故防止委員会を毎月1回行い、ケガや事故の共有、検証、再発防止策を共有する。また同グループ内でも共有し、事故防止策を探る。園内外のハザードの見直しを定期的に行い、ハザードマップの作成・共有

		をする。
3	実践予定内容	危機管理マニュアルに則り、不審者侵入時には対応フローチャートに従う。 年2回不審者侵入訓練を実施する。
4	実践予定内容	光化学スモッグが発生やすい状況を把握し、発令があった場合は速やかに対応、室内で過ごし健康状態の確認を行う。
5	実践予定内容	インシデント・ヒヤリハット報告書を活用し、事故防止委員会で検証を十分に行うことで事故を未然に防ぐ。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉 今年度方針・テーマ

次世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成するため、実習生・研修生を積極的に受け入れる。受け入れることで、保育士自身が自らの保育を振り返り、指導する力を身に着ける良い機会にもつながる。

受け入れる際には、全スタッフで暖かく迎え入れができるようにし、不安なく過ごしてもらえるようにする。

1	実践予定内容	小中学校の保育園見学・職業体験などを積極的に受け入れ、見学期間だけにとどまらず、地域のつながりとして交流をしていくようとする。
2	実践予定内容	大学・専門学校の依頼による、保育実習の積極的な受け入れと、実習生一人ひとりに合わせた温かい受け入れ体制を整え、職員全体でコミュニケーションをとり育成をしていく。

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉 2025年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月25日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ② 危機管理の基礎知識を学ぶ ③虐待防止研修	・重大事故をさまざまな視点から捉えて、防止の方向を探る ・具体的な事故・けがの事例から学ぶ安全な保育
5月30日	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ② 保育日誌・記録のあり方	・記録を通して、遊びの中の育ちや経験を読み取り、子どもの理解を深め次への保育につなげる
6月27日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点	・水遊びマニュアルの確認とロール

		②水遊びのリスクマネジメント	<p>プレイングを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プール遊びの重大事故事例から危機管理の認識を正しく持つ ・AEDの使い方、心肺蘇生講習
7月25日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 日課を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・「さくらさくらんぼのリズム」遊びを学ぶ
8月29日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② アサーティブな伝え方を身につける(保護者対応のスキルアップ)	<ul style="list-style-type: none"> ・相手を尊重しその場にふさわしい形での表現方法を知る。 ・アサーティブ・コミュニケーションのポイントを通してロールプレイングで学ぶ。
9月26日	18:00～20:00	② コンピテンシー自己採点 ② レッジョ・エミリア アプローチに学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト活動、ドキュメンテーションの考え方や方法を知り、明日からの保育に活かしていく。
10月31日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ドキュメンテーションについて学ぶ ③ 虐待防止研修	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフが作成したドキュメンテーションから事例の研究を行い、子どもの理解を深める
11月28日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 「子どもの表現を拓く」自然材の可能性を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが主体的に環境に関わっている遊びの場面で現れる表現を、アフォーダンス理論を手がかりに環境の潜在的価値を考察する。
12月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 「10の姿」「3つの柱」から子どもの姿を理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」「子どもの時期に育みたい3つの能力・資質」から、主体的・自発的に遊ぶ子ども姿を捉えていく
1月30日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 今年度の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・各フロア、担当ごとに今年度を振り返り、アクションプランを立てる
2月27日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度事業計画発表	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画を理解し、次年度の目標を決定する ・次年度の全体的計画と年間指導計画の作成
3月1日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度行事計画策定	<ul style="list-style-type: none"> ・プロポーザルを基に子どもたちに経験させたい行事を決定する。 ・農業計画

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デンマークインターナシップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉園独自の育成計画

若手職員の育成

保育の質の向上のため施設長が『保育塾』を年間通して開催

- ・子どもの発達の理解や年齢別の保育に係る学習を行う(写真の活用、ドキメンテーション作成)
- ・保護者との関わり方「社会人としての」CS(顧客満足)の基本を学び、基本的なコミュニケーション能力を身につける。
- ・自然体験遊び、音楽リズム、表現遊び、食育活動などの内容のスキルアップを図る。

8. 地域交流計画

〈1〉 今年度方針・テーマ

地域に開かれた保育園を目指す。保育士からの日常的なあいさつや近隣の公園での保護者との関わり、他保育園や小学校との情報交換・連携を継続し、地域の方との交流や情報共有を行っていく。

〈2〉 具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回 集客目標：100名
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：大曾根第二公園にて 集客目標：120名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者施設の訪問やイベントへの参加をし、公共の場での触れ合いや関わりを持っていく
異年齢交流	幼保小の連携の中での小学校との連携、中学生による園訪問の地域ボランティア活動、近隣保育園との交流、保育士養成校の学生との交流を年間通して行っていく。
地域拠点活動	子育て支援事業「ちきんえっぐ」、園庭開放、青空保育、地域イベントへの参加を行う
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3~5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉 今年度方針・テーマ

保育園の職員と小学校の教諭が積極的にコミュニケーションを図り、お互いの保育観や教育観を知る機会を設ける。定期的に交流会や研修会を開催し、子どもたちが幼児期や学童期にどのような生活を送っているのか、学習や遊びの環境について理解を深めていく。

子どもたちが、徐々に環境に変化に適応できるようにするために、定期的に小学校を訪ね、校庭で遊ばせてもらうなど、子ども自身が小学校生活への見通しが立てられる環境を整えていく。

〈2〉 具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月8日（火）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	港北地区幼小教育交流会	1名予定	小学校を軸に近隣園	職員間交流

	園長・校長会 (菊名小学校、師岡小学校)		と情報共有及び連携 計画(港北公会堂)	
10月頃	師岡小学校	3名予定	運動会見学	職員間交流
1～2月 頃	太尾小学校 1年	11名予定	当園幼稚保育室	子ども間交流
2月頃	太尾小学校 1年	11名予定	校内でのあそび(太 尾小教室)	子ども間交流
3月頃	菊名小学校	11名予定	学校見学	通学路の確認
3月頃	師岡小学校	11名予定	学校見学	通学路の確認

I 0. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

子どもの発達や状況を理解し、ケース会議の中で共有・振り返りを行い、週案・月案の作成時や個々の変化・成長に合わせて、その都度見直しを行っていく。

〈2〉毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：5名予定)

- ・園会議、昼礼、フロア会議などを利用し、個々の様子を共有しながら理解を深めていく。
- ・配慮の必要な子だけでなく、気になる子や成長・発達の過程で配慮を必要とする子についても共有し、一人ひとりに合わせた対応へつなげていく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

- ・進学する小学校や必要に応じて、関連機関と連携しながら、児童要録・面談や電話での詳細伝達を行う。
- ・進級児は、職員間で情報を共有する。

II. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細	
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30	集客目標：60名

子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30	集客目標：40名
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(水) 10:00～12:00	集客目標：30名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(金) 10:00～12:00	集客目標：40名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00	
ちきんえっぐだより	毎月1日発行	
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名：大曾根第二公園にて開催	集客目標：40名

I 2. 園運営の向上

〈1〉 福祉サービス第三者評価の受審

2020年12月に横浜サステナビリティ研究センターにて受審

〈2〉 園による自己評価の実施

2025年8月19日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：8時30分

自己評価終了予定時刻：16時30分

自己評価実施予定者：施設長、主任、職員全員

〈3〉 利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

I 3. 3カ年計画の具体化

〈1〉 昨年度の振り返り

3月末まで に目指し た姿	重点施策	・「地域で選ばれる保育園」として保育という仕事に誇りと責任を持つ職員集団になるために大人の人間力を向上する。
	振り返り	・職員が生き生きと働き、やりがいを持って働きやすい環境ができ、人が自然に集まる園になっている。さらに、大人の人間力の向上のために、保育者そのものが魅力的な人に成長して、保育のプロとして自信を持って、子どもの育ちを利用者だけでなく地域に園の良さを広めていく。

〈2〉 当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	「多くの人が集まる保育園」として、法人の保育方針が理解され、子ど
--------	------	----------------------------------

		も主体の保育が確立する。
	重点施策	・子どもがどこに行っても温かい雰囲気に包まれ、安心して遊びこめる場所が保障されている。保育者も様々な経験を重ね自信につながり、活気溢れる保育園となる。
2026年度	目指す姿	保育環境の充実と職員間のコミュニケーション能力の高さを強みにした保育実践
	重点施策	・子どもの成長発達に沿った保育環境を整え、子ども同士で問題を解決しながら成長できる場の提供。
2027年度	目指す姿	地域に開かれた保育園として、コミュニティの中心的存在になる。
	重点施策	・保育者として誇りを持ち、地域同士をつなぎ、まちぐるみで保育が豊かになるように働きかける役割となる。

以上

作成日：2025年3月15日 作成者：まめどくれっしゅ 施設長 寺井 奈穂美